

説明： 70年代の最も有名なミュージシャンの一人による真実への探求

パート1:ミュージシャンとしての人生

よりキャット スティーブンス

掲載日時 05 Dec 2009 - 編集日時 05 Dec 2009

カテゴリ：[記事](#) > [新改宗者ムスリムの逸話](#) > [著名人](#)

私が言うべき全てのことはもう皆さんもご存じのように、神によって下された預言者のメッセージ – 真実の宗教を確認することです。人間として、私たちは被造物の長としての意識と義務を与えられました。全ての幻想を捨て、次の人生への準備をするという義務を認識することは大変重要なことです。この機会を逃せば次の機会もないでしょう。聖クルアーンの中では、人が死後清算の場に召集された時、

“ 神よ、どうぞ私たちを現世に送り返し、もう一度機会をお与え下さい ”

と言う場面があります。そして神は、“ もしあなたを送り返したら、また同じことを繰り返すでしょう ” と仰られているのです。



私の初期宗教教育

私はショービジネスの高級で贅沢な流行世界の中で育ちました。私はキリスト教の家庭に生まれましたが、全ての子供は正しい天性のもとに生を受けるにも関わらず、その両親が彼らを彼らの宗教によって捻じ曲げてしまうのです。私はこの宗教、つまりキリスト教を与えられ、この道が正しいのだと思いました。神は存在すると教えられましたが、神との直接の接触はなかったので、イエスを通して接触しなければなりませんでした。イエスは実際神への扉でした。キリスト教は多かれ少なかれ受け入れましたが、全てを受け入れることは出来ませんでした。

私はイエスの像をいくつか見ました；それらはただの石で命はありませんでした。そして彼らが神は三位であると言う時には私は混乱しましたが、そのことについて討論することは出来ませんでした。私は両親の信仰に対して敬意の念を払わなければならない、何となくではあってもそれを信じました。

人気歌手

次第に私はこの宗教から離れていきました。私は音楽を作るようになりました。私は有名なスターになりたかったのです。映画やメディアで見る全てが私をとりこにし、そしてお金を稼ぐという目標を自分の神だと思ってしまったのでしょう。。私にはカッコいい車を持つ叔父がいました。“ 彼は成功者だ。お金を沢山持っているんだから。 ” 私の周りの人々は私を、このように思わせるようになりました；。この世界こそが彼らの神であると。

そして私はこの人生が自分のためのものであると決めました。沢山お金を稼ぎ、良い暮らしをするのだと。今や私の目標はスターです。私は歌を作り始めましたが、心の奥底では人間性への思いがあり、もしお金持ちになったら恵まれない人を助けたいという望みがありました。(ちなみにクルアーンでは私たちは何か約束してそれが叶ったとしても、いざそれ

を手にするると貪欲になるものだと書かれています)

そしてどうなったかという、私は大変有名になったのです。10代にして、私の名前や写真はメディアの至るところで見受けられました。それらは私を原寸大の実生活より大きくしましたが、それゆえに私はより大きく生きたくになりました。そうするための唯一の手段は(酒や薬物で)酔うことだったのです。

病院で

何年かの金銭的な成功と贅沢な暮らしの後、私は結核にかかり、入院しなければならなくなりました。その時私は考え始めたのです。何が起こったのだろうか？私はただの肉体で、人生の目標はただこの肉体を満足させるだけなのか？私はこの苦難が、目を覚ますために神から与えられたチャンスであると気づきました - なぜ私はここにいるのか？なぜベッドの上なのか？そして、その答えを探し始めました。その頃私は、東方の神秘主義に大変興味がありました。私は本を読み始め、まずしについて意識し始め、そして死後も魂は生き続けるのだと考えるようになりしました。私は、私が天国への道と高い達成感へと歩み出したのを感じました。私は瞑想し始め、菜食主義者にまでなりました。私は“平和と花の力”を信じていましたが、それは当時の大きな流行でした。しかし私が信じていた何かは、単に肉体のことだけではありませんでした。私は病院にいる時、このことに気づいたのです。

ある日歩いている時、雨に降られました。私は雨宿りをするために走り始め、気が付きました。“待てよ。私の体は濡れている、私の体が私に濡れていると言っているのだ。”このことは私に、体は口バのようなものであり、どこへ行かなければならないか訓練されていなければならないのだ、いう諺について考えさせました。そうでなければ、口バはどこでも好きな所へあなたを連れて行ってしまおうでしょう。

そして私は神からの授かりものである意思、神のご意思に従うという意志があることに気が付きました。私は自分が学んでいた東洋の宗教の新しい述語を学ぶことに大変魅力を感じていました。その頃までには私はキリスト教には飽き飽きしていました。私はまた音楽を作り始め、今回はそこに自分の思いを投影し始めました。私は自分の歌のある歌詞を今も覚えています。それはこんなものでした：“知っていればなあ、何が天国を作り、何が地獄を作ったのかを。他の人たちが大きなホテルに到達している時、私はベッドや埃っぽい部屋であなたのことを知るのですか？”こうして私は、自分が道の上にいることを知ったのです。

私はまた“神を見つける方法”という別の曲も書きました。私は音楽界で更に有名になりました。私はお金持ちになりましたが、有名になると同時に真摯に真実を探していたので大変難しい時でした。そして私は仏教は素晴らしいものでかつ高貴なものであるという段階に来ていましたが、まだこの世界を去る準備は出来ていませんでした。私は世俗と余りに密になり過ぎていたので、僧となって社会から自分を孤立させる用意が出来ていなかったのです。

私は禅や経、数秘術、タロットカードや占星術などを試しました。また聖書に立ち返ってもみましたが、何も見つけられませんでした。その頃、私はイスラームについては何も知りませんでした。私が奇跡と見なすある事件が起きたのでした。ある時私の兄弟がエルサレムのモスクを訪問したのですが、それはその生命感で彼に大きな感慨を抱かせた一方、(空の教会やシナゴークの空虚さとは違って)平穏な雰囲気と静けさで満たされていたのでした。

この記事のウェブアドレス :

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/87>

Copyright © 2006-2011 www.IslamReligion.com. All rights reserved.